フロリダ大学ラテン・アメリカ研究センター

Center of Latin American Studies, the University of Florida

フロリダ大学は約100年の歴史を持ち，農業・技術部門で特に発展をみた数多いアメリカの州立大学の一つだが，現在学生数1万5000をこえ，アメリカ南部で最大の大学であるとともに，古くからラテン・アメリカ色の強い点に特色の一つがある。現在約700人の外国人学生のうち，279人が，ラテン・アメリカ諸国の学生で，キューバ人（152人）と中米出身の学生（パナマを含めて44人）の多いことが目立つ。

したがって，この大学におけるラテン・アメリカ研究は盛んで，ラテン・アメリカに関してはアメリカで最大の講座数を持ち，またこの大学の「ラテン・アメリカ研究センター」は，アメリカでも最も重要なものの一つである。アンダー・グラデュエートでも，「ラテン・アメリカ研究の学士号が与えられ，また歴史の古い歴史学部では特にラテン・アメリカ研究が盛んである。

「ラテン・アメリカ研究センター」の前身であるSchool of Inter-American Studiesについては，すでに，桜井雅夫『ラテン・アメリカ経済研究事情』（アジア経済研究シリーズ第33集）に紹介されているから，ここでは，特に最近の事情について紹介することにしたい。

「ラテン・アメリカ研究センター」は昨年10月に，School of Inter-American Studiesとその他の諸計画をひきついで設立された。Directorは，歴史学部のマキャリスター教授（Lyle N. McAlister）である。かれは主著*The Fuero Militar in New Spain*で知られ，専門は植民地メキシコである。設立にあたっての主要な変革は機構面において集権化が行なわれ，従来バラバラに行なわれていた諸計画がDirectorの手に統括されたこと，集権化によって新規の計画を加えることが容易になったことである。地域研究としてのラテン・アメリカ研究に対してこれまで与えられていたPh. D.の称号は，卒業生の進路という実際的な見地から，これ以上与えないことになった。M. A.の称号については今までどおりで変化はないが，Ph. D.は地域研究，人類学以外の経済，政治，農業経済，地理，歴史，社会学，スペイン語のいずれかの専攻部門で取得しなければならない。現在このセンターに統括されている諸計画は次ページの表のとおりである。

NDEA Programは National Defense Education Act第6条に基づき，教育庁にあたるOffice of Educationがこのセンターに対し，ラテン・アメリカ地域研究および語学研究に従事する大学院生に研究資金として奨学金を支給する。この計画は1962年に開始された。

Caribbean Research Programはロックフェラー財団の資金提供によって，1961年から開始されたもので，カリビア海地方の諸問題の研究を促進するため大学院生に対する奨学金，研究者に対して研究費および図書購入の資金を提供する。

SORO計画は，ワシントンのAmerican Universityに設置されているSpecial Operation Research Officeと契約して，一種の委託研究を行なう。すでに，政治における軍部の機能に関してのケース・スタディが，アルゼンチン，コロンビア，ドミニカ，メキシコ，ペルーの5カ国について開始された。マキャリスター教授はこの部門の権威者の1人であり，特に力をいれており，成果が期待されている。

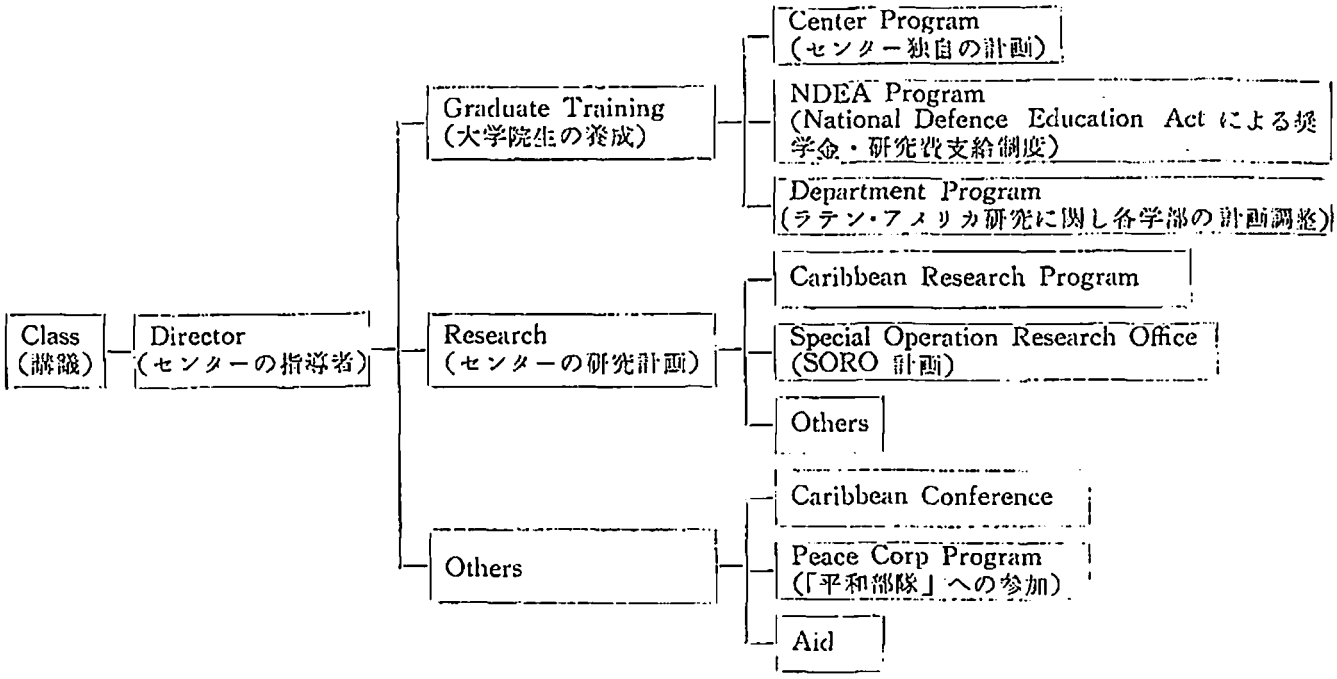
Conference on the Caribbeanは主要な国際的活動として，今後も行なわれる。直接かつ実際上の運営は従来どおりウィルガス教授が行なう。『ラテン・アメリカ経済研究事情』を補足（81ページ参照）すれば，その後1959年から63年までに，

X. The Caribbean: Contemporary Education
XI. The Caribbean: The Central American Area
XII. The Caribbean: Contemporary Colombia
XIII. The Caribbean: Venezuelan Development, A Case Study
XIV. The Caribbean: Contemporary Mexico

の各テーマで会議が開かれており，本年度は，

XV. The Caribbean: Its Health Problems

というテーマで行なわれる。昨年の暮の会議は筆者も傍聴したが，メキシコの学者がアメリカ人の学者に鋭く反論する場面が見られ，地域研究におけるbiasについて考えさせられた。自国の研究であれ外国の研究であれ，それぞれの研究に盲点があり，しかもそれが案外基礎的な問題



に関する信条から派生していることがあると思われた。

「平和部隊 (Peace Corp)」に対する参加は，このセンターの重要性を物語っている。マキャリスター教授と農学部のヨーク教授 (Dr. E. T. York, Provost of the Agricultural Development) の発案から，「平和部隊」本部との契約が本年2月に成立したもので，本年度はプエルト・リコにあるトレイニング・センターに43名の志願者と14名の教授が派遣される予定である。来年度からは，フロリダ大学でも志願者の訓練が行なわれるという。訓練をおえた隊員はドミニカの農村開発計画に参加する。マキャリスター教授がそのために地域研究を統括することになっている。学生の間ではかなり関心が高く，卒業後「平和部隊」にはいって「ラテン・アメリカを助けたい」というムードはかなり強い。センタとしては，平和部隊に参加した学生が大学院にはいり，その経験を生かして，ラテン・アメリカ研究に従事することを希望しているが，その意味でもこの計画は重要であろう。

経済学のブラッドベリー教授 (R. W. Bradburey)，地理学のクリスト教授 (Raymond E. Crist)，政治学のダウアー教授 (M. J. Dauer)，キャンター教授 (H. Kantor 人類学のスミス教授 (T. L. Smith) などが主要なスタッフである。

ラテン・アメリカ経済関係のコースには，"Trade and Industry", "Financial Institution of Latin America", "Economy of Spanish America", "Economy of Brazil" などがある。なお，このセンターの弱点はラテン・アメリカの考古学，教育，音楽に関するコースがないことだといわれている（本年5月にこのセンターに関するカタログが発行されたので，詳細はそのカタログを参照されたい)。出版活動における変化としては，*Journal of Enter-American Studies* が6月頃他大学に移管されることが特筆されよう。

歴史学部もフロリダ大学のラテン・アメリカ研究の重要な一環となっている。現在の学部長は東洋史のハリソン教授 (Dr. John A. Harrison) であるが，ラテン・アメリカ研究センター所長のマキャリスター教授やウィルガス教授をはじめ，ラテン・アメリカの歴史研究が盛んである。大学院のセミナーは1クラス8～15人で構成され，相当な量の課題が学生に与えられ真剣に行なわれている。昨年ブッシュネル準教授 (Dr. David Bushnell, Associate Professor) がスタッフに加わった。専門は独立期のコロンビアで，主著は *The Santander Régime in Gran Colombia* である。なお，ウースター教授は昨年 Texas Christian University に移っている。アーネード教授も Florida Southern University に移った。

この大学の図書館 (General Library) はラテン・アメリカ全般，特に社会科学方面に関する整備された蔵書「現在約10万点と推定される）を持つ。資料収集の重点はカリブ海諸国（植民地，ギアナを含む）の文書である。この図書館は早くからスペイン統治下にあったフロリダとカリブ海地帯に関する文書のすぐれたコレクションを持っていたが，1952年にアメリカ内の図書館の自発的な協

定」ファーミントン計画(Farmington Plan)に参加，一定の地域を担当して資料収集に努力を集中することになった。そのほか，熱帯農業に関する文献もすぐれたコレクションであるといわれている。ラテン・アメリカ関係の図書収集にあたっているのは，Reference Department のMiss Irene Zimmerman と Miss Suzanne Hodgeman の両氏である。中年を過ぎた両氏が非常に精力的に働いているのに感心させられた。収集のために図書館員を派遣するようなことはまれで，現地調査を行なう研究者に購入を委任することになっている。ラテン・アメリカ関係の図書収集の年間予算は1.5～2万ドルである。カタログの作成にキューバ人（特に婦人）が多く採用されているのが目立つ。図書館ではスペイン語がかなり通用している。

この図書館のほかに各学部が独立した図書館を持っているが，法学部 (Law School) の図書館はラテン・アメリカ法に関する蔵書を多く持ち，特にブラジル法に重点がおかれている。農学部はラテン・アメリカの農業関係の文献をかなり多く所蔵している。

University of Florida Press は権威のある *Handbook of Latin American Studies* の出版者として知られている。*Latin American Monograph Series* の刊行も続けられている。*Caribbean Conference Series* も特色のある出版物である。その他フロリダ大学のスタッフおよび著名な学者によるラテン・アメリカ関係のものが相当数刊行されている。詳細はカタログを参照されたい。外国に対する出版物の発送は，Fetter & Simons, Inc., 31 Union Square, New York 3, New York が担当している。

（当研究所職員　山田睦男）

―― フロリダ留学中 ――

西ドイツの低開発国援助

―― アジア経済研究シリーズ　53 ――

田中誠一郎　著

第1章　西ドイツと低開発国
　まえがき
　第1節　低開発国の概念
　　――低開発国の概念・低開発国の特長・低開発国のタイプ――
　第2節　西ドイツの低開発国援助
　　――低開発国援助の内容・低開発国援助の諸動機――
第2章　拡大均衡なき低開発国貿易
　第1節　外貨蓄積の源泉
　　――経済発展と貿易・外貨蓄積と低開発国――
　第2節　西ドイツの貿易構造と低開発国
　　――高度分業型貿易構造・補完関係に乏しい対低開発国貿易・低開発国貿易におけるシェアー・低開発国向機械輸出――
第3章　低開発国援助の展開
　第1節　低開発国援助政策の方向と重点
　第2節　低開発国援助の実績
　　――実績と特色・低開発国の援助をめぐる諸問題・低開発国援助実施の機関と手続――
　第3節　民間投資の現状
第4章　低開発国援助政策の概要
　第1節　法制上の諸措置
　　――1961年度予算法・マーシャル援助見返資金低開発国援助法・1961年度マーシャル援助見返資金経済計画法・低開発国援助法案・復興金融金庫法・ドイツ開発会社・投資優遇の税制措置――
　第2節　国際協定
　　――二重課税防止協定・投資保護協定・経済・技術協力協定――
　第3節　輸出金融措置
　　――輸出金融株式会社・復興金融金庫――
　第4節　輸出保険制度
　あとがき
　付　表
　主要参考文献